

融合プロジェクト

「誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくりという柱で復興プロセスを活かした関係人口の拡大に対しての私達の提言」

4-22班 高崎杏奈 広畑圭唯 村田真乙 堀空遥 輪瀬ゆづな 垣内颯真 木下結花

1. 私たちの提言

『災害時にモバイルファーマシーやドローンなどを使った医薬品・サプリメントの供給体制を整え、円滑に行うために事前に人員確保する』

柱(4) 誰もが安全・安心に暮らし、学ぶことができる
リーディングプロジェクト

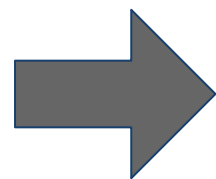
①復興プロセスを活かした関係人口の拡大

2. 見込める効果

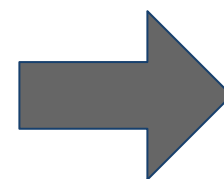
運搬時間の**短縮**

手軽な医療の**供給**

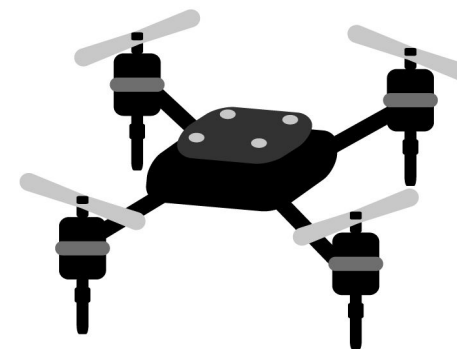
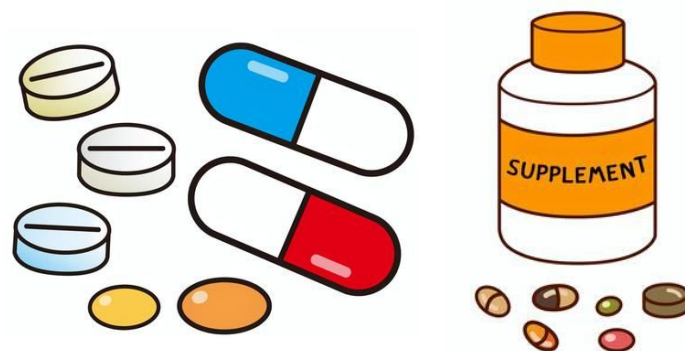
人員の事前確保
MPの利用



医薬品
サプリメント



災害関連死の減少
栄養補給
孤立地域への運送



3. 実施するために

災害時にすぐ出動できる
人員の確保



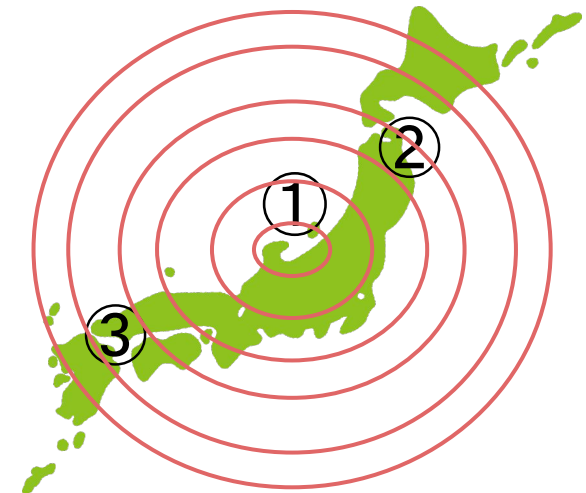
登録販売者・医師・薬剤師の募集



応募者の住所登録



被災地から近い順



4. タイムスケジュール

取組	短期 (~R7末)		中期 (~R10末)			長期 (~R14末)			
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
モバイルファーマシー (災害対策医薬品供給車両) の整備	車両の購入や運用 (保管場所、維持管理) などについて関係機関と 協議・検討								

<https://x.gd/jpPGU>

追加予定

運搬する薬の
種類決め

医療従事者・操縦士の募集

5. どのような役割から考えたか

- ①高崎 安奈：法律家の立場
- ②広畑 圭唯：教員の立場
- ③村田 真乙：社会福祉の立場
- ④堀 空遥：医療従事者の立場
- ⑤輪瀬ゆづな：医療従事者の立場
- ⑥垣内 颯真：薬学関係者の立場
- ⑦木下 結花：医工学関係者の立場